

文教警察委員会（10/5）における意見について

1 文教警察委員会委員

佐々木 幸士	委員長（自由民主党・県民会議）
只野 九十九	副委員長（自由民主党・県民会議）
庄子 賢一	委員（公明党県議団）
境 恒春	委員（みやぎ県民の声）
鎌田 さゆり	委員（みやぎ県民の声）
角野 達也	委員（日本共産党宮城県会議員団）
三浦 一敏	委員（日本共産党宮城県会議員団）
佐々木 賢司	委員（自由民主党・県民会議）
中山 耕一	委員（自由民主党・県民会議）
相沢 光哉	委員（自由民主党・県民会議）

2 意見内容等

項目名	ページ	意見の内容（中間案に対する意見）	中間案②における記載内容（案）等
第2章 本県教育の現状 2 本県教育の課題	P.7	・今回は課題として、第1期計画で重視していた学ぶ力や学力向上よりも先にいじめ・不登校問題について書かれているが、10年スパンで考えたときに、この位置付けがどうなのかということについてよく検討いただきたい。（三浦一敏議員）	・基礎学力が重要であるという認識に変わりはありませんが、学校教育の中で一番大事な部分は何なのかを議論する中で、人間性を高めることではないかという考えから、人間性に関わるいじめ・不登校問題を最初に記載しています。
基本方向4 幼児教育の充実	P.44	・教育の原点は幼児教育にあると思う。小さい子どもをどう育てていくかということを考えたときに、本当に必要な教育を幼児教育の段階からしっかりと行っていかなければならない。（相沢光哉議員）	・本計画では、「幼児教育の充実」を基本方向の一つとして盛り込むとともに、幼児教育に関する目標指標を新たに設定しており、これまで以上に幼児期における「学ぶ土台づくり」を推進していきます。
基本方向5 多様なニーズに対応したきめ細かな教育の推進	P.47 ⑳	・第1期計画では、基本方向3に障害のある子どもへのきめ細かな教育の推進が掲げられていたが、第2期計画では、読み解いていかないと理解できないようなタイトルになっており、県の取組として熱が冷めてしまったようにも取られかねない。もっとピックアップした形で県の姿勢をはっきりさせるべきだと思う。（佐々木賢司議員）	・障害のある子どもへのきめ細かな教育を推進していく姿勢は第1期計画と変わりはなく、幅広く様々な少数者への配慮や個別的な支援も必要であるという視点から、当該タイトルにしています。なお、構成を見直し、基本方向5の取組を、「(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」と「(2) 多様な個性が生かされる教育の推進」の2つに分けて整理しました。

項目名	ページ	意見の内容（中間案に対する意見）	中間案②における記載内容（案）等
基本方向5 多様なニーズに対応したきめ細かな教育の推進	P.47	・基本方向5においては、特別支援学校の狭隘化の解消やそれぞれの個性の違いを認め合い、尊重し会える教育環境づくりといった特別支援教育の充実をまずは優先すべきではないか。（鎌田さゆり議員）	・本計画は、今後10年間の計画であり、特別支援学校の狭隘化の解消など特別支援教育に係る喫緊の課題に速やかに対応していくとともに、多様な個性に対応し、性的マイノリティへの配慮や支援などについても併せて進めていかなければならないと考えています。
基本方向8 安心して学べる教育環境づくり	P.57	・「教員の資質能力の総合的な向上」とあるが、児童生徒の最大の教育環境は教職員であるという基本的な理念が希薄な気がする。最初から子どもや学校をどうするというのではなく、計画の中心に据えるのは教職員であり、絶対に欠かしてはならない視点だと思う。（庄子賢一議員）	・計画の構成上、子どもに関わる取組を支える基盤として基本方向8に取りまとめています。学校教育における教職員の資質の重要性は極めて高いものと考えており、重点的取組として、引き続き取り組んでいきます。
	P.62	・「(5) 私学教育の振興」について、私学という特殊性はあるにしろ、教育の振興という観点から、もう少し記載内容があってもよいのではないか。（角野達也議員）	・私学教育については、建学の精神を十分に尊重した上で、取組の参考として、県の教育の大きな方向性を示していきたいと考えています。
第5章 計画の推進 1 計画の推進に向けた施策の在り方	P.73	・計画を策定してただ示すのではなく、具体的な対象を絞り込んでいかないと、教える側の先生も学校も全くそういう意識を持たずに、ただ決められたルーチンを果たす教育になってしまう。ぜひアクションプランを年代別あるいは成長段階に応じた具体的な形で提案してもらいたい。（相沢光哉議員）	・基本方向の取組を整理し、「発達段階における取組イメージ」（P.30・31）を記載しました。また、アクションプランにおいても、記載内容を検討していきます。
	P.73 (P.74 ④)	・発達段階に合わせたアクションプランの実効性を確保できるように、「連携」から「接続」に一步踏み込んで進めてもらいたい。また、教員の資質向上や特別支援教育などに対する意見を、十分検討願いたい。（佐々木幸士議員）	・「2 学校における教育施策の着実な推進」（P.74）において、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続や、小・中・高等学校及び特別支援学校間の連携・接続の推進について記載しました。あわせて、御意見を踏まえ、引き続き本計画及びアクションプランの内容を検討していきます。